

令和5年9月4日  
財 務 局

平成30年度東京グリーンボンド（リファイナンス分）  
対象事業の決定について

令和5年度に発行する平成30年度東京グリーンボンド（リファイナンス分）について、  
調達資金の充当対象事業を下記のとおり決定しましたので、お知らせいたします。

記

	事業名	環境事業区分	環境効果(実績)	経過 年数	残存許可 年限※	リファイナンス額 (百万円)
1	ヒートアイランド現象に伴う暑熱対応(遮熱性・保水性の向上)	1. エネルギーの脱炭素化と持続可能な資源利用によるゼロエミッションの実現	✓ 遮熱性・保水性舗装の整備延長 13km	5年	25年	833
2	都有施設の改築・改修	1. エネルギーの脱炭素化と持続可能な資源利用によるゼロエミッションの実現	✓ 太陽光発電設備の想定発電量 (年計) 396,975kWh	5年	25年	2,134
		2. 生物多様性の恵みを受け続けられる、自然と共生する豊かな社会の実現	✓ 緑化面積の拡大 5,866 m <sup>2</sup>			
3	都有施設・道路の照明のLED化	1. エネルギーの脱炭素化と持続可能な資源利用によるゼロエミッションの実現	✓ エネルギー削減量 (年計) 7,405,623kWh	5年	25年	1,760
4	自転車走行空間の整備	1. エネルギーの脱炭素化と持続可能な資源利用によるゼロエミッションの実現	✓ 整備延長 サイクリングルート 11.5km (R6年度末まで) 自転車走行空間 15.7km (R2年度完成)	5年	25年	83
5	都立公園の整備	2. 生物多様性の恵みを受け続けられる、自然と共生する豊かな社会の実現	✓ 整備面積 23,700 m <sup>2</sup>	5年	25年	250
6	中小河川の整備	1. エネルギーの脱炭素化と持続可能な資源利用によるゼロエミッションの実現	✓ 河川の整備率 67.3 % ✓ 調節池の貯留量 1,056,300 m <sup>3</sup> (R7年度末まで)	5年	25年	2,548

7	高潮防御施設の整備	1. エネルギーの脱炭素化と持続可能な資源利用によるゼロエミッションの実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 防潮堤 0.17km</li> <li>✓ 護岸 0.15 km (R1 年度完成)</li> </ul>	5 年	25 年	583
8	東京港・島しょ海岸保全施設整備事業	1. エネルギーの脱炭素化と持続可能な資源利用によるゼロエミッションの実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 東京港の防潮堤 60.4km</li> <li>✓ 東京港の水門 15 施設</li> <li>✓ 東京港の内部護岸 45.6 km</li> <li>✓ 東京港の排水機場 4 施設 (いずれも R13 年度末まで)</li> <li>✓ 神津島港海岸の離岸堤 (潜堤) 0.3 km (R1 年度完成)</li> </ul>	5 年	25 年	499
合 計						8,690

※残存許可年数とは、地方債発行時に総務省へ届出を行った許可（償還）年限（当該地方債を財源として建設しようとする公共施設又は公用施設の耐用年数の範囲内）から資産の経過年数を引いたもの

別添：東京グリーンボンドにおける環境事業区分

【問い合わせ先】  
 財務局主計部公債課  
 直通 03-5388-2682

## 東京グリーンボンドにおける環境事業区分

東京都環境基本計画（2022年9月）に基づき設定した環境事業区分及び当該環境事業区分ごとの東京グリーンボンドの対象事業例と想定される環境効果は下表のとおり。

No	環境事業区分	対象事業の例示	想定される環境効果
1	エネルギーの脱炭素化と持続可能な資源利用によるゼロエミッションの実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業所における温室効果ガス削減</li> <li>■ 省エネルギー対策・エネルギーマネジメントの推進</li> <li>■ ゼロエミッションビークルの普及促進</li> <li>■ 次世代交通導入、自転車利用促進</li> <li>■ 再生可能エネルギー等（太陽光、地中熱、下水熱及び水素等）利用率向上</li> <li>■ 資源ロスの削減、環境に優しい素材の利用</li> <li>■ 3R、廃棄物の循環利用促進</li> <li>■ 環境負荷の低減に役立つ資材の使用促進</li> <li>■ 都市の気温上昇に対する適応</li> <li>■ 洪水や自然災害への対応</li> <li>■ 道路整備（遮熱性・保水性対策）</li> <li>■ 水質汚染の軽減、地下水の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ CO<sub>2</sub>排出量の低減</li> <li>■ エネルギー使用量の削減</li> <li>■ 再生可能エネルギー利用量の増加</li> <li>■ 廃棄物排出量の低減</li> <li>■ 廃棄物循環量の増加</li> <li>■ 気温上昇に対する適応能力の向上</li> <li>■ 洪水や津波、その他の自然災害への対応能力の向上</li> <li>■ 遮熱性・保水性の向上</li> <li>■ 水質汚染の改善</li> </ul>
2	生物多様性の恵みを受け続けられる、自然と共生する豊かな社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 緑の創出・保全（公園整備、都市の緑化推進及び森林整備等）</li> <li>■ 生物多様性の保全（海上公園の干潟整備等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 緑地面積の拡大</li> <li>■ 整備面積の拡大</li> </ul>
3	都民の安全・健康が確保された、より良質な都市環境の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 大気汚染の軽減</li> <li>■ 土壌汚染対策の推進</li> <li>■ 有害廃棄物等の処理促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 大気・土壌汚染の改善</li> <li>■ CO<sub>2</sub>排出量の低減</li> <li>■ 廃棄物循環量の増加</li> </ul>